

平成 31 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽東中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成 31 年 4 月 18 日（木）

3 調査対象

小学校 第 6 学年（国語、算数、児童質問紙）

中学校 第 3 学年（国語、数学、英語、生徒質問紙）

4 本校の参加状況

① 国語 248 人

② 数学 249 人

③ 英語 251 人

5 留意事項

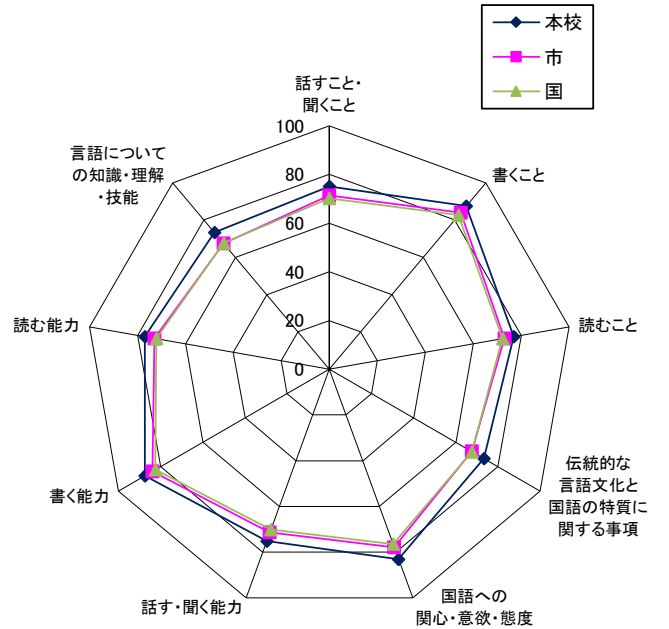
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の 3 教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.1	71.4	70.2
	書くこと	87.5	83.9	82.6
	読むこと	76.9	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.4	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	83.1	77.9	76.5
	話す・聞く能力	75.1	71.4	70.2
	書く能力	87.5	83.9	82.6
	読む能力	76.9	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	73.4	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

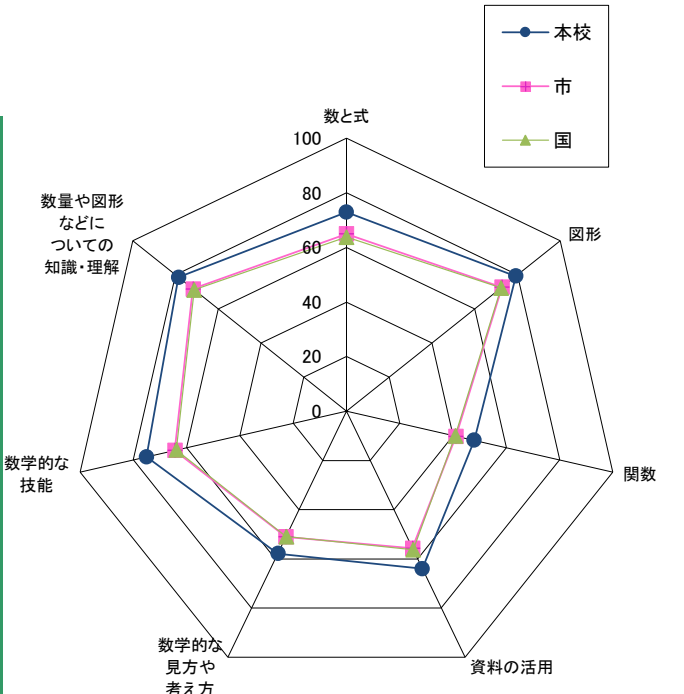
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正答率は全国平均を4.9ポイント、市平均を3.7ポイント上回っている。 ●特に、「話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ」設問では、正答率が全国及び県平均を約8ポイント上回っているが、同領域の他の設問より正答率を大きく下回っている。	・他者の立場や考えの違いを認める雰囲気作りに努め、主体的に考え対話的な学びによって考えを表現し合うことで、互いに納得する結論を導き出すことのできる活動になるよう指導していきたい。また、様々な見方や考え方から共通点や相違点を整理したり、自分とは異なる考え方を知り、自分の考えを再構築したりするなど、考えを広げたり、深めたりする言語活動の充実に努めていきたい。
書くこと	○正答率は全国平均4.9ポイント、市平均を3.6ポイント上回っている。特に、「伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く」設問では、正答率が全国平均を8.1ポイント、市平均を6ポイント上回っている。 ●「ある情報を用いて意見文を下書きに具体例を書き加える」設問では、無答率が5.2ポイントいることから、書くことが苦手ではじめから諦めてしまう生徒がいと推測される。	・自分の考えが伝わる文章を書くために、自分の考えの根拠となる資料や図表を適切に引用したり、体験や知識を活用したりするなど、指導の工夫が必要である。また、理由を明確にしたり、文章構成を考えたりする活動を多く取り入れ、根拠を明確にして、自分の考えを書く力の習得につなげていきたい。
読むこと	○正答率は全国平均を4.7ポイント、市平均を3.9ポイント上回っている。特に、「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」設問では、正答率が全国平均を6.2ポイント、県平均を7.1ポイント上回っている。 ●「短歌の中の言葉で適切に取り上げて想像できる情景や心情について、感じたことや考えたことを具体的に書く」設問では、全国平均を0.1ポイント、県平均を0.3ポイント下回っている。	・文章の内容や構成を正しく把握し、理解したことや考えたことを記録したり文章にまとめたりするような活動を取り入れ、どのようにその考えに至ったのかを振り返るよう指導していきたい。また、まとめ同士の関係や、事実と推測、根拠・理由と結論、表現から伝わる考え方などを捉える学習を積み重ねていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○正答率は全国平均5.7ポイント、市平均を5.9ポイント上回っている。特に、「封筒の書き方を理解して書く」設問では、正答率が全国及び県平均を約7ポイント上回っている。 ●「封筒の書き方を理解して書く」設問では、全ての条件を満たして解答できた生徒は約2割しておらず、投稿先の名前や住所を書く位置が大きく偏っていたり、投稿先の名前を住所より大きく書けなかったりしている解答が見られた。	・国語科だけでなく各教科等の学習や社会生活における文字を書く場面や状況を想定し、その目的や必要に応じて効果的な文字の書き方を学習する活動を取り入れていきたい。また、その際、読み手や伝える相手を意識し、様々な書式に合わせて、適切な字形や書体、筆記具で書く指導を行っていきたい。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	72.9	64.9	63.8
	図形	79.3	72.8	72.4
	関数	47.9	41.1	40.8
	資料の活用	64.0	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	57.9	51.1	51.0
	数学的な技能	75.1	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	78.6	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

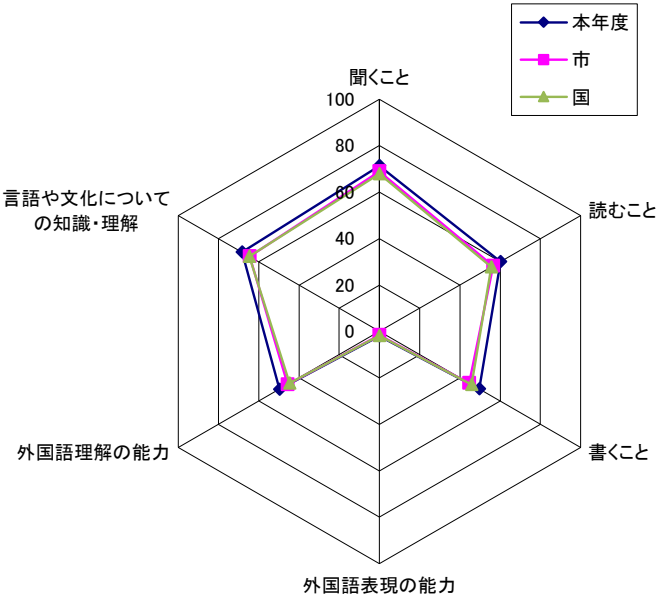
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率は全国平均を9.1ポイント、市平均を8ポイント上回っている。特に、「四則計算の結果について考える」「連立二元一次方程式を解く」「説明に沿った式変形の目的を捉える」設問では、全国及び県平均を7ポイント以上上回っている。 ●「事柄が成り立つ理由を説明する」設問では、正答率は全国及び県平均を上回ったものの、無答率が15.3ポイントであることから、説明する力が身に付いていない生徒も多い。	・今後、授業や宿題等で式の説明に関する問題を取り扱い、復習することで、知識の定着を図り、技能を向上させ、考え方の育成に努めていきたい。 ・知識の定着のため、ワークやプリントなどを利用してドリル学習を取り入れていきたい。
図形	○正答率は全国平均を6.9ポイント、市平均を6.5ポイント上回っている。特に、「図形を平行移動した距離を求める」「当てはまる三角形の合同条件を記入する」設問では、全国及び県平均を5ポイント以上上回っている。 ●「様々な四角形の性質をもとに、結論が成立するための前提を考える」設問では、正答率は全国及び県平均を上回ったものの、無答率が全体の14.1ポイントであることから、条件を満たして成り立つ事柄を記述できない生徒が多いことが推測される。	・図形の性質を正確に身に付けさせるために、ワークやプリントを利用したドリル学習を徹底して実施する。 ・授業で図形に関する問題を取り扱う際、イメージし易いように、デジタル教科書を継続して利用するなど、ICTを効果的に使うことで、生徒のもつ苦手意識の解消を図ってきたい。
関数	○正答率は全国平均を7.1ポイント、市平均を6.8ポイント上回っている。特に、「反比例の式を表から求める」設問では10ポイント以上、「事象に則してグラフを解釈する」設問では約5ポイント、全国及び県平均を上回っている。 ●「式やグラフを用いて問題解決の方法を数学的に説明する」設問では、正答率は全国及び県平均を上回ったものの、無答率が10.1ポイントであることから、方程式を解いて値を求めたり、グラフの交点の座標から値を読み取ることを苦手としている生徒もいる。	・1次関数のグラフの見方や式の意味が理解できるよう、授業で復習する機会を設け、既習事項の定着を図る。 ・今後も、関数の表・式・グラフの関係性をしっかり身に付けられるような授業を構成し、知識・技能の向上、数学的な考え方の育成に努めていきたい。
資料の活用	○正答率は、全国平均を7.7ポイント、市平均を8.3ポイント上回っている。特に、「資料を整理した表から最頻値を読み取る」設問では、全国平均を3.5ポイント、県平均を5.4ポイント上回っている。 ●「考えが適切でないことをヒストグラムの特徴を基に説明する」設問では、正答率は全国・県の平均を上回ったものの、無答率が14.9ポイントであることから、「数と式」の領域と同様、説明する力が身に付いていない生徒も多い。	・授業等で、平均値とヒストグラムの特徴を復習することで、知識の定着を図り、考え方の育成に努めていきたい。 ・発表や発言をする際、根拠を述べ、筋道を立てて自分の考えが伝えられるよう指導していくことで、説明する力を向上させていきたい。

宇都宮市立陽東中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	71.3	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	60.2	56.5	55.6
	書くこと	49.5	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	2.0	1.5	1.8
	外国語理解の能力	49.7	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	68.3	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○正答率は全国平均を3.4ポイント、市平均を2.4ポイント上回っている。特に、「まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解する」設問の正答率は、全国平均を7.5ポイント、県平均を5.2ポイント上回っている。 ●「まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解する」設問の正答率は、県平均を0.9ポイントとわずかに上回ったが、全国平均を0.3ポイント下回っている。	・短い英文だけでなく、ある程度長さのある英文のリスニングを取り入れることで、情報を正確に聞き取る力を身に付けさせたい。 ・オールイングリッシュを意識した授業を実践することで、英語の文法や使いまわしに慣れ親しませ、英語を耳で理解しようとする意欲を高めたい。
話すこと		
読むこと	○正答率は全国平均を4.6ポイント、市平均を3.7ポイント上回っている。特に、「簡単な語句や文で書かれたものの内容を正確に読み取る」設問の正答率は81.7ポイントであり、全国平均を1.7ポイント、県平均を4.4ポイント上回っている。 ●「書かれた内容に対して自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえる」設問では正答率が17.1ポイントと非常に低い。	・本文の要点を整理させたり、英文要約などの活動を行うことで、まとまりのある文章の大切な部分を読み取ることに慣れさせたい。 ・ただ文章を読むのではなく、段落ごとのキーセンテンスを理解するなど長文の読解方法を指導していきたい。
書くこと	○正答率は全国平均を3.7ポイント、市平均を4.9ポイント上回っている。特に、「一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書く」設問の正答率は、全国平均を7.3ポイント、県平均を8.6ポイント上回っている。 ●「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書く」2つの設問の正答率は、全国平均を下回っている。また、「与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書く」設問では、全国平均を上回ってはいるものの、正答率が2.0ポイントと非常に低い。	・3人称単数現在時制の肯定文を苦手としている傾向があるため、主語が3人称の場合の動詞の変化など、ポイントとなる点を指導していきたい。 ・自分の意見を英語で書く活動を取り入れ、既習の語句や文法を活用して、自由に英作文できる力を身に付けさせたい。 ・ノートを活用した単語練習や授業の復習を進めさせ、学習事項を定着させたい。

宇都宮市立陽東中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

【良好な状況が見られた項目】

○本校の肯定的回答の割合が9割を大きく上回っている項目は、「人の役に立つ人間になりたいと思う。」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う。」「学校の規則を守っている。」「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある。」「学級のみんなで話し合っ

て決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。」であった。学校で落ち着いた学習に

取り組み、積極的に学校行事で活動している様子から、互いに支え合いながら物事を進めていける協調性の高い生徒が多いと考えられ、社会の中でたくましく生きていける資質を持っているのではないかと考える。

○「朝食を毎日食べている。」「毎日、同じくらいの時刻に起きている。」という項目の肯定的回答の割合は9割を上回っている。学校生活の中では、野菜は苦手だが給食ではきちんと残さず食べていたり、食後の歯みがきが習慣化されていたりするなどから、規則正しい生活習慣が身に付いていると思われる。

○「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないことについて、わかるまで教えてくれていると思う。」という項目の肯定的回答の割合は9割を上回っている。授業中はもちろん、休み時間においても、疑問をそのままにせず、積極的に質問する生徒が多いため、個に応じたきめ細かな指導を心掛けてきた。また、定期テストにおいては、誤答対策ノートの提出を求め、学習内容の定着に努めてきた成果であると考え

る。○「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。」という項目の肯定的回答は、全国平均を17.2ポイント、県平均を8.6ポイント上回っている。本校では、言語活動や主体的・対話的で深い学びを研究テーマとした校内研修を行っており、教員同士の公開授業の中で、話し合い活動を充実させてきた。生徒の取組の様子から、話し合いや発表の仕方、意見のまとめ方などが身に付いてきており、成果が徐々に現れていると思われる。

【課題が見られた項目】
●「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」という項目の肯定的回答は全国平均を24.6ポイント、県平均を14.0ポイント上回っているが、「今住んでいる地域の行事に参加している。」という項目の肯定的回答の割合は約5割であった。地域の行事は、毎年、地域学校園で行事カレンダーを作成しているの

で、実施時期については分かっているが、部活動や資格検定試験などが重なって参加できなかったようである。地域のよさを知ってもらいたいと考える生徒が多いので、今後はできるだけ地域の行事に参加できるようにするためには学校で何ができるのかを検討していきたい。

●「新聞を読んでいる。」という項目の肯定的回答の割合は約3割である。新聞を読むことで、社会の出来事や動きに興味・関心を持ったり、内容を理解しながら読む力や語彙力を身に付けられることに気付かせていき、社会に目を向けさせ、視野を広げていく指導に努めてきたい。

宇都宮市立陽東中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自ら進んで表現できる生徒の育成	①基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着 ②主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善 ③個に応じたきめ細やかな指導の充実	①調査教科における平均正答率が全国及び市平均を上回っていることから、基礎的・基本的な知識及び技能は身に付いている。 ②話し合い活動に関する全ての項目については、約9割が肯定的回答をしていることから、主体的・対話的な学びができており、より深い理解につながる学びの実現に向けた授業改善が進められている。 ③「先生は分かるまで教えてくれていると思う。」という項目では「当てはまる」の割合が53.0ポイントと一番多く、全国平均を15.7ポイント、県平均を7.7ポイント上回っているおり、何でも授業中に質問できる授業の雰囲気づくりに努め、きめ細やかな指導を行っていることが分かる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
身の回りで起こっている社会の出来事や動きに関心を持っていないこと	社会に目を向ける指導	朝の会での教師の話や授業の中で、新聞記事やニュースなどの情報から、政治、環境問題、災害や事故などを取り上げ、身の回りに起こっている出来事に関心を持たせる。